

## 「RCEP」

新聞等で、「TPP（環太平洋パートナーシップ協定）」に代わって注目されている経済連携として「RCEP」があります。今回は、この「RCEP」について説明いたします。

### 1. 「RCEP」とは

「RCEP」とは、「Regional Comprehensive Economic Partnership」の略称で、日本語では、「東アジア地域包括的経済連携」と呼ばれています。ASEAN（東南アジア諸国連合）を中心とした国家群が参加する広域的な自由貿易協定のことであり、別名「メガFTA」とも呼ばれています。この経済連携協定は、2011年11月にASEANの提唱によって始まり、その後16カ国による議論を経て、2012年11月のASEAN関連首脳会合において正式に交渉が立ち上げられました。この経済連携は、実現すれば世界の人口の約半分にあたる34億人、世界の国内総生産（GDP）の約3割にあたる20兆ドル、世界の貿易総額の約3割にあたる10兆ドルを占める広域経済圏ができることとなります。

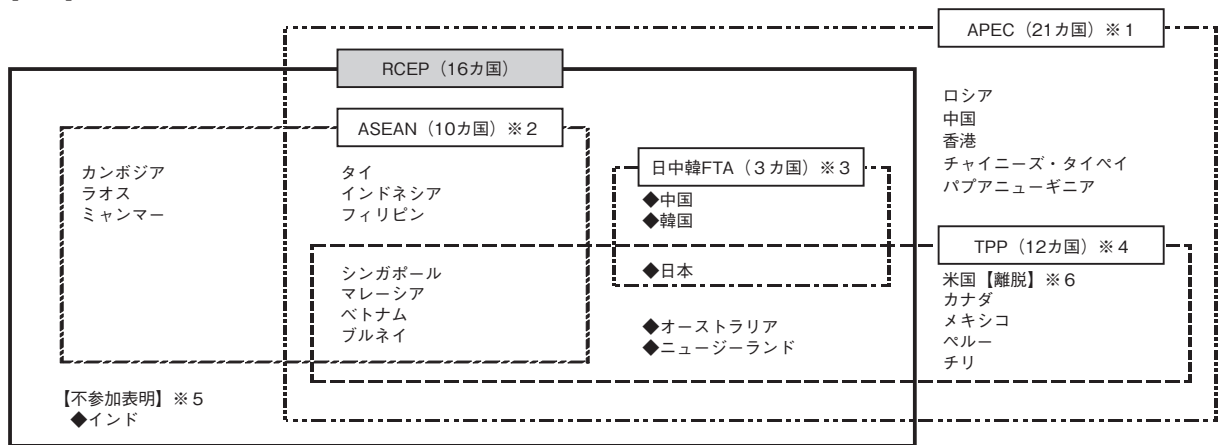
### 2. 想定される経済連携の内容

ASEANは、すでに日本、中国、韓国、インド、オーストラリア、ニュージーランドの6カ国と個別にFTA（自由貿易協定）を結んでおり、関税障壁の撤廃に動いています。「RCEP」は、こうした個別のFTAを包括的に束ねることで広域的な経済連携を実現しようとしています。この構想には、関税の自由化を実現するにとどまらず、サービス分野における規制緩和や投資障壁の除外が含まれています。この経済連携協定が締結すれば、国を跨いだ広域的なサプライチェーンの実現・拡大や通関コストの大幅な低減などが現実のものとなります。

### 3. 今後の状況

2019年11月4日バンコクで開催された「RCEP」の首脳会合では、目標としていた2019年内の妥結を断念した上で、インドを除く15カ国が2020年中での「RCEP」協定の署名を目指して作業に入ることで合意しました。なお、インドは国内の消費や産業への影響等を考慮して不参加の意向を示しています。

【図1】RCEP、TPP、ASEAN等の参加国の違い



※◆印の国は、「日本・ASEAN」、「中国・ASEAN」などいわゆる ASEAN+1 の EPA/FTA を締結している国です。

※1 「APEC」：アジア太平洋経済協力（Asia Pacific Economic Cooperation）の略称。

※2 「ASEAN」：東南アジア諸国連合（Association of South-East Asian Nations）の略称。

※3 「FTA」：自由貿易協定（Free Trade Agreement）の略称。

※4 「TPP」：環太平洋経済連携協定（Trans-Pacific Partnership）の略称。

※5 インドは、2019年11月「RCEP」に不参加を表明。

※6 米国は、2017年1月に TPP の離脱を表明。

## 閑話ひとつ

- ▶今年が2020年の区切りの年です。区切りの年といえは今から20年前の2000年があります。この年はコンピューターが2000年を1900年と認識し誤作動を起こすと危惧された「2000年問題」がありました。
- ▶また、ノストラダムスの大予言では1999年7月に人類が滅亡するとされ、必要以上に社会不安を煽られて大騒ぎしましたが、蓋を開けてみれば、大きなトラブルはなく2000年を迎えることができました。
- ▶当時、「特命リサーチ200X」という、超常現象などを検証する情報バラエティ番組があり、その中で、巨大津波が沿岸を襲い、スーパー堤防をも乗り越えるという話があった記憶があります。東日本大震災の津波被害時にはその番組を思い出したことを覚えています。
- ▶昨年は台風の影響による大規模な水害など、自然の脅威にさらされました。情報番組で災害からいかに身を護るかということの良い意味で煽っていけば、いざという時に役立つのではないのでしょうか。それでは皆さま、本年も「福島の進路」をよろしくお願いたします。（HT）